

思い出

西野 紀代子（7組）



さわやかな新緑の季節を迎え、八期会幹事の方々のご苦勞に深い感謝をしながら、思い出を書くことにいたしました。

最高に輝いていた「文武両道」の玉龍高校に入学できました三年間の思い出は、本当に素晴らしい、七十歳を過ぎた今でも、何か胸を張って生活して居ります。

池畑校長先生との朝の校門でのあいさつから始まり、校長先生自らの掃除の時間、真黒になるまでの全校高校野球応援、夏の霧島でのキャンプなど、校長先生をはじめ、今村先生、郡山先生方の若い力と熱い心ある教育を受けられたことは、今の私の大きな財産の一つだと思います。

沢山の友達に囲まれて、色々なところで助けられ、長い年月が心温かく過ごせた様に思います。

高校卒業後、洋裁学校を一年で卒業し、どうしても東京に行きたくて、堀田昌子さんの力を得て、東京での会社勤めが実現しました。そこでの友人も出来、貴重な東京生活を経験して、二年後帰鹿。それから第二の人生、結婚をしました。

昭和五十八年三月、華道蒼仙流を創流致しました。その際、萩原（本田）ルミ子さんの多大な尽力を頂き、創流披露宴を県では初めてのことでしたが、盛大に開くことができました。

ルミ子さんとはとても明るく、歌も素晴らしい上手な方でした。また、なかなかの頑張り屋さんで、鹿児島島の財界人とも顔が広く、沢山の色々な人々に力を貸して下さい、皆、ルミ子さんを頼って居りました。

その中でも私は、とっても沢山の助けを頂きました。早く若くして亡くなられたことに、今さら淋しく残念に思います。元気だったら、やっと鹿児島県連合華道会会長になれました事をどんなに喜んでもらえたかと、本当に残念でなりません。

生け花一筋に、色々な方々と楽しく人生を過ごして居ります事に、深く感謝しながら、毎日をしっかりと頑張っ、両足で力強く立って行こうと思っております。

萩原ルミ子さんの事を皆が思い出して下さいと、一筆下手な文章を書いてみました。

SOLISEN

